

アセット・マネジメント部門

“ アセット・マネジメント部門は、お客様に最高のパフォーマンスを提供するために、運用力とマーケティング力の強化に努め、ニーズの変化を敏感に捉えた多様な商品・サービス提供力をもつ、特色あるアジアの運用会社として、世界の投資家から広く信頼される存在を目指しています。”



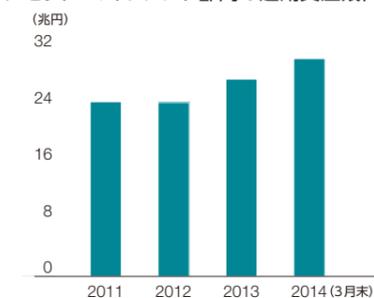
アセット・マネジメント部門CEO
渡邊 国夫

市場環境と2014年3月期の業績

2013年4月に日本銀行が打ち出した大胆な質的・量的金融緩和や、海外での景気回復に対する期待が維持されたことを受け、先進国を中心に投資環境の改善が継続し、2014年3月末の国内公募投資信託市場全体の残高は約80兆円となり、前期末比で10%増加しました。

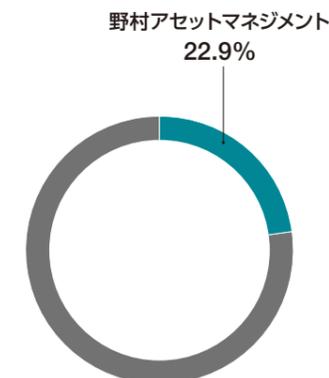
こうしたなか、投資信託ビジネスでは、お客様のニーズに応じた商品を提供するとともに、既存ファンドの残高拡大に取り組み、グローバル株、日本株への投資と為替取引を組み合わせた「通貨選択型」などを中心に資金が流入しました。また、「NEXT FUNDS」の統一ブランドで提供しているETFでは、JPX日経400ETFおよびR/Nファンダメンタル・インデックスETFを新たに設定・上場しました。ETFは合計で42本となり、運用資産残高は4.0兆円(前期末比52%増)まで拡大しました。結果として、国内公募投資信託市場におけるシェア(純資産ベース)は2014年3月末で22.9%となりました。また、顧客ニーズを捉えた私募投信の販売が地域金融機関を中心に増加しました。

アセット・マネジメント部門の運用資産残高*1



*1 アセット・マネジメント部門に属する運用会社の合計から重複資産控除後

国内公募投信シェア*2
(2014年3月末)



*2 出所：投資信託協会

すべてはお客様のために

東日本復興支援債券ファンド1105を通じた被災地への復興支援

野村アセットマネジメントは、東日本大震災の被災地の復興支援を目的とした投資信託を2011年5月に設定し運用しています。2013年度には、第4期、第5期に受け取った信託報酬の一部(純資産総額に対し年率0.2%程度)などの総額6,300万円を、青森、岩手、宮城、福島、茨城の5県および仙台市に復興事業の財源として寄付しました。

また、震災孤児などが希望する進路選択をし、社会人として立ち立つまで、息の長い支援を行うことを目的とする「いわての学び希望基金」「東日本大震災みやぎこども育英募金」「東日本大震災ふくしまこども寄附金」に、運用期間である5年間に計10回にわたり継続的寄付を行っていきます。

アセット・マネジメント部門

一方、投資顧問ビジネスでは、欧州やアジアの機関投資家を中心に日本株、ハイ・イールド債券などの運用受託が増加するとともに、海外の有力運用会社2社から日本株の運用マニフェストを獲得しました。さらに、UCITS*に適合した日本株や米国ハイ・イールド債券に投資するファンドを海外の富裕層チャンネルを中心に提供し、運用資産残高を拡大しました。

2014年3月末の当部門運用資産残高は30.8兆円と、前期末比で2.9兆円増加し、2014年3月期の当部門の収益合計(金融費用控除後)は805億円(前期比17%増)、税引前当期純利益は271億円(前期比28%増)となり、2008年3月期以来の高水準を達成しました。

*UCITS: Undertakings for Collective Investment in Transferable Securities、欧州委員会指令に定義される譲渡可能証券の集団投資事業のことで、欧州連合における投資信託の統一基準

販売会社向けセミナーおよびサポートダイヤル

全国の野村証券の支店や証券会社、銀行、ゆうちょ銀行などの販売チャンネルにおいて、個人投資家や投資信託の販売に係る販売会社等を対象とするセミナー・勉強会を、年間約8,000回開催し、投資信託の商品内容やリスクなどへの理解を浸透させるとともに多様な投資ニーズの把握に努めています。

また、個人投資家や販売会社からの投資信託に関する問い合わせには、専用のサポートダイヤル(フリーダイヤル)で対応し、寄せられたご意見・ご要望は、関係部署で共有し、商品開発やサービスの向上などに活用しています。

責任投資への取り組み

野村アセットマネジメントは、「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則(21世紀金融行動原則)」および「国連責任投資原則(国連PRI)」の署名機関であり、お客様のニーズに応じた運用を行うにあたって、ESG(環境・社会・ガバナンス)の観点を踏まえ

ることを前提としています。また、ESG課題への取り組み方針などについては、最高運用責任者(CIO)を委員長として社内に設置したESG委員会を原則年2回開催して協議しています。2014年5月には、金融庁が策定した「責任ある機関投資家」の諸原則「日本版ステューワードシップ・コード」の受け入れも表明し、「責任ある機関投資家」として、投資先企業の持続的成長を促しつつ、顧客・受益者の中長期的な投資リターンを拡大を図るため、引き続き投資先企業との対話を行ってまいります。

責任投資への取り組み [WEB](http://www.nomura-am.co.jp/corporate/service/responsibility_investment/index.html)
http://www.nomura-am.co.jp/corporate/service/responsibility_investment/index.html

参考:「ステューワードシップ責任」「日本版ステューワードシップ・コード」とは「ステューワードシップ責任」とは、機関投資家が、投資先企業やその事業環境等に関する深い理解に基づく建設的な「目的を持った対話」(エンゲージメント)などを通じて、当該企業の企業価値の向上や持続的成長を促すことにより、顧客・受益者の中長期的な投資リターンを拡大を図る責任を意味する。本コードは、機関投資家が、顧客・受益者と投資先企業の双方を視野に入れ、「責任ある機関投資家」として当該ステューワードシップ責任を果たすに当たり有用と考えられる諸原則を定めるもので、本コードに沿って、機関投資家が適切にステューワードシップ責任を果たすことは、経済全体の成長にもつながるものである。(出所:金融庁資料)

今後の取り組み

競争力のある高い運用パフォーマンスの提供

当部門が提供するアクティブ運用の根幹となる運用力を活かして、経験と実績で優位性をもつ日本株・アジア株運用のほか、運用・調査機能を拡充したアジア債券やエマージング株式の運用、良好なトラックレコードを有するJ-REIT運用などにおいて、競争力のある高い運用パフォーマンスを提供していきます。

また、高い専門性を有するハイ・イールド債券やインフレリンク債券の運用、絶対収益の獲得を目指す高アルファ型の運用、潜在的な市場成長余地が大きいと考えられるイスラム運用、スマートベータ型のファンダメンタル・インデックス運用など、特徴ある運用商品の拡充に努めます。

投資信託を通じた「貯蓄から投資へ」の促進

投資信託ビジネスにおいては、国内の投資信託市場における地位をさらに強固なものにするため、個人投資家の幅広い運用ニーズに応える多様な投資機会を提供するとともに、各販売チャンネルとの連携を高め、質の高いマーケティング・顧客サポートを通じて、「貯蓄から投資へ」の流れを促進し、投資家層の拡大、投資信託市場の発展にも資するよう取り組みます。

特に、2014年1月より開始したNISAでは、制度の定着・発展に向け、以前から実施している「NISAに関する意識調査」の結果等も活用して、制度の趣旨に合った運用商品とサービスの提供に取り組むとともに、確定拠出年金(DC)制度のさらなる拡大・発展に向け、運用商品の一層の充実を図ってまいります。また、当部門は2014年4月、投信の営業体制を証券会社や銀行といった販売チャンネル別の体制から地域ごとに担当者を配置する体制に再編し、地域性に見合った情報発信やサポートを行うなど、ニーズの変化にさらに機動的に対応していきます。

[NISA特集ページも併せてお読みください](#) → p.12-13

投資顧問・海外ファンドビジネスのさらなる拡大

投資顧問ビジネスでは、国や地域の特性や、顧客ごとに異なる運用方針や運用目的に的確に対応した運用戦略の提案に取り組んでいます。国内においては、厚生年金基金制度を取り巻く環境が変化するなかで、多様な資産運用ニーズに応え、受託者責任を全うしていきます。

海外では、SWF(ソブリン・ウェルス・ファンド)や中央銀行、大手年金などからの運用受託拡大に引き続き取り組むとともに、UCITSに適合したファンドの活用を通じて欧州をはじめとする海外でのファンドビジネスの拡大に取り組めます。前期末比で約66%増加したUCITSファンドの運用資産残高をさらに拡大させるとともに、既存の旗艦UCITSファンドに続く新しいファンドの育成に努めます。

また、今後、幅広い所得層の資産運用ニーズが本格化することが展望されるアジアにおいては、2014年4月にINGグループから買収した台湾拠点をベースに、台湾市場でのさらなるプレゼンスの向上を目指すとともに、オーストラリアや韓国、ドバイなど海外ビジネスの陣容の充実を進め、マレーシアを中心としたイスラム運用ビジネスを含めてビジネスの拡大に努めます。

すべてはお客様のために

運用ファンドが外部機関のアワードを受賞

野村アセットマネジメントが運用する投資信託は、さまざまな運用戦略のファンドにおいて、外部の投資信託評価機関から高い評価を得ています。「R&Iファンド大賞 2014」では、「J-REITオープン(年4回決算型)」などで最優秀ファンド賞を受賞するなど、10部門で13の賞を受賞しました。また、「J-REITオープン(年4回決算型)」は、モーニングスター「ファンド オブ ザ イヤー 2013」のオルタナティブ&バランス型部門において、最優秀ファンド賞を受賞しました。「リッパー・ファンド・アワード・ジャパン 2014」では、当社がミックサセット部門において最優秀運用会社へ選出され、7つのファンドが最優秀ファンド賞を受賞しました。

<http://www.nomura-am.co.jp/corporate/awpub/award/>

